



Determinants of Continuum of Care for Maternal, Newborn, and Child Health Services in Rural Lao PDR

著者名	SAKUMA Saki
journal or publication title	東京女子医科大学雑誌
volume	88
number	1
page range	40-40
year	2018-02-25
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032017 doi: 10.24488/jtwmu.88.1_39(https://doi.org/10.24488/jtwmu.88.1_39)

3. カドミウムによる肺がんの悪性転化機構の解明

(衛生学公衆衛生学 (第一)) 藤木恒太・
宮山貴光・松岡雅人

たばこ煙中に含まれるカドミウム (Cd) の肺がん発生への関与が実験的および疫学的に示唆されている。しかしながら、肺がん細胞の悪性化に及ぼす Cd ばく露の詳細な作用機構は明らかではない。我々は、HK-2 ヒト近位尿管上皮細胞において、Cd が転写因子 Notch1 シグナル伝達系活性化を介した細胞毒性を惹起することを見出した。そこで、本研究は、Cd ばく露の肺がん細胞に対する慢性影響と Notch1 活性化の重要性を明らかにすることを目的とした。その結果、Cd をばく露した A549 ヒト肺胞基底上皮腺がん細胞では、上皮間葉転換 (EMT) の惹起、ストレスファイバーの形成、細胞移動能の上昇および抗癌剤に対する抵抗性が認められた。また、Notch family のうち Notch1 のみ Cd ばく露によりその発現量が上昇し、Notch1 活性化型である Notch1-ICD の発現量、Notch1 のターゲット因子である転写因子 Snail および Slug の発現量が上昇した。さらに、Notch1 を siRNA により機能阻害すると、Cd ばく露による上記の影響が部分的にすべて抑制された。また、慢性 Cd ばく露によって獲得した A549 細胞の形質変化は、Cd を細胞内外から完全に除去しても維持されることが示された。以上の結果から、Cd ばく露によって Notch1 経路が活性化することが肺がんの悪性化に関わる可能性が考えられた。

4. ピエ・ノワールの名乗りの実践に関する考察

(外国語文化) 足立 綾

本発表では、仏領アルジェリア出身のフランス市民による「ピエ・ノワール (以下、PN)」の名乗りの実践について、記述式アンケート、聞き取り、参与観察、一次資料から得られたナラティブをもとに考察した。PN とは一般に仏領アルジェリア出身の「引揚者」を指す俗称だが、それは当初、「植民地主義者」というネガティブな意味を持つ、名付けられた蔑称であった。同時に、彼らは公称としては「ラパトリエ (帰還者)」となり、本国社会への統合が成功したとされた時には、市民として、公的には社会で不可視化された。「ラパトリエ」という呼称が好まれない一方、「PN」は現在、当人たちからも自称として用いられるようになった。本調査においては、彼らが「PN」を名乗る際、その意味をポジティブに読み替えて名乗っていること、また、コミュニティを表すものとして捉えていることがわかった。そのような名乗りの背後には、まずコミュニティの想像があり、そして名乗りが、さらなる名乗りの実践を生み、あたかも実のコミュニティであるかのように可視化していることは、既存の集団に名のラベルが付されるのではなく、まず境界がひかれることにより、対象が有意味化されて実態を帯び、

過去を備えた集団となる、という民族生成の諸理論から説明できる。しかし同時に、PN 団体の調査から、その活動目的は、フランスとは切り離された固有の文化や記憶の主張ではなく、フランスの過去の一部に組み込まれていくことだということもわかった。このことから、本発表においては、一見独自の集団を志向する「PN」の名乗りの実践とは、一旦可視化した上で真の統合を目指す「異化効果」を持つものだと結論づけた。

5. Determinants of Continuum of Care for Maternal, Newborn, and Child Health Services in Rural Lao PDR (ラオスの農村部における母子保健継続ケアの決定要因)

(Department of International Affairs and Tropical Medicine) Saki SAKUMA

Introduction : Maternal, newborn and child health (MNCH) is a global issue. The continuum of care is focused as an important component to improve MNCH. Lao PDR is one of the most inequitable countries regarding women's access to healthcare services and maternal and child mortality ratio are still high. The objectives of this study are : to investigate the holistic coverage of continuum of care and to identify the factors associated with mothers' continuation in receiving services in rural Lao PDR. **Methods** : A community-based, cross sectional study was conducted in rural district in central Lao PDR in 2016. Face-to-face interviews were conducted among the mothers aged from 16-49 years old. For outcome variable, in addition to each MNCH services, modified composite coverage index (CCI) was created to express continuum of care. **Results** : 263 mothers were included in the final analyses. Five factors were shown to have statistically significant associations with higher modified CCI score : three factors were positively associated and two factors were negatively associated. From the combination of four promoting factors, mothers were still likely to have higher score when they had family and community factors even they did not have appropriate socio-economic factors. **Discussion** : New promoting factors for continuum of care were identified from this study. They were earlier first antenatal care and male and family involvement. **Conclusions** : In conclusion, this study showed five factors determinants for the continuum of care expressed by modified CCI. In addition, other promoting factors for the continuum of care are earlier antenatal care first visit and male and family involvement in MNCH.